



地域移行通信

第50号 令和5年3月発行

世田谷区 自立支援協議会 地域移行部会



この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

<世田谷区自立支援協議会 地域移行部会>
精神科病院の入院患者等の退院促進に向け、関係機関との情報交換や課題への対応策等の検討を行っています。



今回は、以下についてお伝えします。
1.令和5年 3月 「誰でも地域移行部会」を開催！



1. 令和4年度「誰でも地域移行部会」：総合進行 運営委員副会長 寺西 宏晃 氏

日 時：令和5年3月9日（木）14：00～16：30
テ ー マ：「精神科病院へ入院している区民の方々が、退院後地域で安心して暮らすために、関係者、支援者、当事者として何ができるかを考える」
場 所：東京リハビリテーションセンター 地域交流スペース
参加人数：46名（うち運営委員等13名）

相談支援事業所	行政	病院	ピアサポーター	民生委員・民生児童委員	通所施設等	ぼーと・基幹相談支援センター	訪問看護ステーション	その他	合計
10	8	7	5	4	4	4	3	1	46

今回は、「精神科病院へ入院している区民の方々が、退院後地域で安心して暮らすために、関係者、支援者として、何ができるか」をテーマとし、病院関係者や地域で精神障害者を身近に支えている方々（今回は就労継続支援B型事業所）から実際の支援についての話題提供をいただきました。

また、今回は対面開催とし、これまでと同様、地域移行の現状を知ってもらうことのほか、グループワークを実施し、意見交換や情報交換を踏まえ、参加者ご自身に自分なら何ができるかを一緒に考え、発表しました。

開会挨拶：運営委員会長 松浦 聖 氏

地域移行部会は精神障害者で入院している方への地域移行人に向けた支援の在り方や課題の抽出・解決策を提言する場所。本日は関係する支援者、ピアの方々、多くの方の参加があります。意見を出し合いながら、テーマについて考え、交流しこの機会に関係づくりも進めましょう。

(1) 「世田谷区での地域移行の現状と課題」：運営委員会長 松浦 聖 氏

世田谷区の長期入院の現状と課題について報告。『世田谷区長期入院者訪問支援事業』は本人が希望する地域生活の実現につながる一つの試み。「病院外部の人の風を入れる」的な発想が重要。高齢・介護保険分野との連携、病院・地域の垣根を越えて、連携・協力できる仕組み作りが重要。再入院を繰り返さないための、自立訓練（生活訓練）や、就労の機会の提供、必要な能力を育むこと、仲間づくりなども必要。

(2) 病院から『退院後の支え手（地域の事業者）との連携について～』

：地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立松沢病院 大沼 扶美江 氏

地域の力、仲間の力が必要、ベースにある治療は大事だが、病院の持つ機能だけでは足りない。孤立しない、誰かとつながっている感覚、社会参加している仲間の存在、生活に直結した相談ができる場所の存在が重要。病院で聞く就労継続支援B型事業所に所属している患者さんたちの声としては、『最初はなれなかったが、やめずに続けてこれられて自信がついた』『自分の仕事を評価してくれる人がいて張り合いがある』『皆が自分のことを知っている』など事業所への所属感と自信につながる場であることが特徴となっていると感じる。

(3) 就労継続支援B型 (2事例) 『精神科病院を退院した方の支援について』

①風の谷プロジェクト 多田 真由美 氏

「風の谷プロジェクト」の活動と入院時・退院後の支援例の紹介。そのなるべく入院にならないためには、日々の活動やかかわりを通じ「いつもと違う心配な様子」などに気づき、なるべく早く対応する支援が必要であり、普段からのさまざまな関係機関や家族との関係づくりや連携が大切になるのではないかと。

②ハーモニー 新澤 克憲 氏

『ハーモニー』の活動紹介と利用者の長期入院中の支援例の紹介。「間口を広く、敷居を低くいたずらに人を評価しない場所、人に評価されない場所」あえて居場所にこだわってきた同事業所において、長期の入院中から事業所スタッフや仲間とのつながりを大切にしながら、退院に向けた支援を行ってきた支援例を紹介。人のつながりや『戻る場』があることは退院への気持ちの維持につながるのではないかと。

グループワークと発表 (A～Fグループ)

テーマ：「退院後のその人の人生に焦点を当て、地域で生き生きと暮らすための支援について」

医療機関・福祉関係・ピア、当事者・行政の立場として、それぞれの立場でやること(ピンタ)、やりたいこと(きいろ)、やってほしいこと(みずいろ)を付箋に書き、模造紙に張り付けながら、グループでテーマに沿って話し合う。グループの代表が、話し合いの様子を発表、全体で共有した。

- Ⓐ医療機関における、疾病教育の必要性、改めて感じた。住居の確保が難しい、確保しやすくなればいいが。
- Ⓑ自分も関係者として、できることを積み上げていきたい。ピアとして、病院の中でも活躍の場を広げていきたい。民生委員として、活動を広げていきたい、行政の協力も必要。
- Ⓒその人らしさの支援ができればよい。自然の中で暮らすことも良いのではという意見も。
- Ⓓピア活動大事。隙間支援もとても大事。障害のサービスから、高齢者、介護保険サービスへの移行とつながりも、難しい、連携の必要性を感じている。
- Ⓔ地域生活の楽しみが、感じられるような関係者とのつながりが重要。ピアとして履歴書作成協力している。
- Ⓕ話し合いの焦点が絞れないほど、さまざまな意見や関わりがあった。多くの方々が、その人なりにできることを精一杯やっている。狭間の問題も多い。行政の関わり、力も必要。

アンケート結果：回答数28名（参加者：46名（うち運営委員等13名）

回答していただいた方の職種

精神保健福祉士	9
相談支援専門員(ケアマネジャー含)	5
ピアサポーター	5
民生委員(民生児童委員含)	3
看護師	3
社会福祉士	1
その他	1
行政	1
合計	28



今回の地域移行部会の参加は何回目ですか？

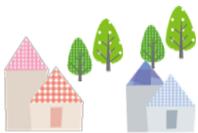
初めて	21
2回目	5
3回目	1
それ以上	1

今回の地域移行部会にご参加いただいた理由は何ですか？

①地域移行・地域定着に関心があるため	19
②地域移行部会のアクションプランに関心があるため	2
③地域支援者との関係づくりのため	10
④地域支援者との連携のため	9
⑤勉強のため	17
⑥参加するよう指示があったため	3
⑦その他	1 (気づいたらいました)

今回の地域移行部会はいかがだったでしょうか？

とても良かった	13
良かった	15
ふつう	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0



その理由を教えてください

- ・様々な職種の方々と意見交換ができてとてもよかったです。
- ・B型さんのお話、とても興味があったので勉強になりました。
- ・様々な立場の方たちと意見交換することができ、病院内にいただけではわからない気づきもあり、良い時間になりました。
- ・事業所の取り組みがよくわかった。当事者の気持ちも伝わった。
- ・グループワークは楽しかったです。
- ・報告も、病院含め地域（B型）が退院後どのような支援、かかわりをもっているのか聞くことができよかったです。
- ・色々な立場の異なる視点の意見を聞くことができ、大変学びになりました。
- ・B型事業所の雰囲気や支援の様子など、具体的にわかってよかったです。
- ・課題共有ができてよかったです。
- ・いろいろな職種の人が参加していて驚いた。ピアの会だと思っていた。
- ・純粋に勉強になりました。

今回の地域移行部会において、得られたもの、理解が深まったもの、今後の業務において活かそうこと等がありましたか？あれば教えてください。

- ・リアルで色々な職種の方との意見がぎけました。色々な視点があったと思います。
- ・世田谷区内の地域移行の現状について。
- ・連携の大切さ。間口の広い相談体制が必要と感じています。
- ・ピアの活動について知ることができ、当院でも取り入れたいと思いました。
- ・どのような取り組みをしているのか、地域にも伝え、障害者への理解を深めていきたい。
- ・あらためて福祉部門と住宅部門の連携が大切と感じた。
- ・職場で地域の支援者とお会いするときはケースのことを話すだけになってしまうが、それぞれの立場で「できること」「やってみたいこと」を聞くことができとてもよい機会だった。
- ・ピアサポーターの方達から出ていた生の意見がとても心に刺さりました。当事者の方たちの本音を知れる貴重な時間になりました。
- ・立場が違っていても、やりたいこと、課題が共通していると感じた。
- ・日頃は目の前に集中しているため、幅広い視点のお話しが聞けて大変勉強になりました。
- ・地域移行の仕組みが深められました。
- ・ぼーとせたがやが三軒茶屋に居場所を作ったことを知れた。



地域移行部会のご感想やご意見等をご自由にお書きください。

- ・初めて参加しましたが、とても良い時間になりました。ご準備や運営などありがとうございました。
- ・医療の視点がとても新鮮でした。
- ・初めて参加しました。地域移行の手助けが少しでもできたらよいです。
- ・居住支援事業と地域移行の支援の連携を地域移行部会とやれたらいいなと思いました。
- ・ピアサポートの様子、地域移行の実態をもっと一般に広めてほしい。
- ・様々な職種の方の意見を聞く機会を増やしてほしいと感じた。
- ・KJ法なのでみんなが、それぞれ意見が言えた。4つの枠に当てはまらない？どれにも重なる意見が多く出た。みんなの共通の課題、めざしたいことがたくさんあるんだと思った。協働できるといいと思った。
- ・ハーモニーのリアルな支援が聞けてよかった。
- ・ピアサポーター（当事者）の居場所がほしいです。
- ・みんな連携して、入院患者を地域で暮らせるようにしましょう。

誰でも地域移行部会の様子

会長挨拶



世田谷区地域移行の現状と課題説明



登壇者発表



グループワークの様子・発表



全体 まとめ運営委員長 松浦 聖 氏より

顔合わせて、話し合うことの大事さ、すばらしさを味わうことができた。今後も長期入院の方々が居ることを、一人でも多くの区民、関係者、支援者、ピアの方々が知り、関心を持ちながら、ネットワークを広げることで、地域で生き生きと暮らすことができるように、本日のこの会で得られたものを力に、地域移行を進めていきましょう、これからもよろしくお願いいたします。

【事務局】

世田谷区障害福祉部 障害保健福祉課
世田谷保健所 健康推進課

電話 03(5432)2247
電話 03(5432)2947